

学校経営の方針

I 佐渡市教育大綱と佐渡市教育振興基本計画

<基本理念>

明日の佐渡を創る人、世界に羽ばたく人の育成
～一人一人の自己実現を目指した教育の推進～

<基本方針>

[学校教育] 佐渡を知り、愛し、誇りとし、社会的自立を目指す人づくりの推進

<基本目標>

- 1 学ぶ意欲を高め確かな学力等を育成する教育の推進
- 2 郷土愛を軸にしたキャリア教育の推進
- 3 安全・安心な学校づくり

上記を踏まえて、教育目標と本年度の重点目標を設定する。

II 本年度の取組

<学校の教育目標>	「佐渡・八幡を愛し、貢献できる八幡っ子」
<本年度の重点目標>	「社会に開かれた教育課程」の実現
<本年度の研究主題>	「主体的・対話的で深い学び」の実現

III 目指す学校像

1 コミュニティ・スクールのための「社会に開かれた教育課程」の実現

「佐渡・八幡を愛し、貢献できる八幡っ子」を実現するためには、学習指導要領で求められている「社会に開かれた教育課程」を編成・実施していくことが大切である。学校は、地域の課題を理解・共有し、よりよい社会を創ることに貢献する教育課程と単元を開発していく必要がある。そのためには、今まで以上に、地域素材の教材化を進めなくてはならない。学校運営協議会、地域教育コーディネーターとの連携を深め、外部講師とともに活動する単元を創造していくことが必要である。

「社会に開かれた教育課程」を目指して作られた単元の学習を受けた子どもは、家庭生活や地域生活においても、佐渡・八幡を愛し、貢献する姿が見られるようになる。社会貢献は、主体的・対話的に学び続ける中でしか実現できない。今年度も、八幡芋を宣伝し、塩害・風害を防ぐ松を植え、ジオパークに貢献し、朱鷺や金銀山のアピールを行う。さらに、地域主催の行事への児童参加を意図的に勧めていく。地域主催の行事で見せる子どもの姿こそが、学校が育てた「子どもの成長した姿」である。その積み重ねが、保護者・地域に信頼される学校、教職員につながっていく。

2 「主体的・対話的で深い学び」の実現

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。

子どもに質の高い知識や技能を身に付けさせ、生きて働く資質・能力を育むためには、子どもの興味関心や能力の実態を把握し、授業の在り方を絶え間なく考え、授業の工夫・改善を重ねていかねばならない。そのためには、教材研究と教材準備が不可欠である。

「主体的・対話的で深い学び」は、45分間の授業の中だけで実現されるものではなく、単元や題材のまとまりの中で実現されていくものである。特に、学びの深まりは、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、知識を相互に関連づけてより深く理解したり、自分の考えを形成したり、創造したりする授業を工夫することで実現される。そこに向かう「主体的な学び」につながる単元構成、「対話的な学び」につながる単元構成、交流活動を工夫していく。

今年度も、チーム学校として、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、研修を深め、授業改善を進めていく。

IV 重点目標「『社会に開かれた教育課程』の実現」のために

下記は、学校評価の中で実現する事項である。以下の実現のために、教育活動、運営活動を構想、実施、評価していくが、その際、本年度の重点目標「『社会に開かれた教育課程』の実現」を図りつつ行うことになる。

1 学ぶ意欲を高め、確かな学力等を育成する教育の実現

◆学力向上

NRT学力検査で各学級の偏差値平均が53を超える。

◆家庭学習の習慣化

学年×10分+10分の学習時間が週に4日以上（平日）取り組める。

2 いじめを見逃さない、不登校を生まないための豊かな心と規範意識の醸成

◆豊かな心

いじめ見逃しを「0」にする。

不登校、不登校傾向の子どもを前年度より増加させない。

3 郷土愛を軸にしたキャリア教育（地域学習）の推進

◆地域貢献

生活科や総合的な学習の時間等で、佐渡や八幡について意欲的に調べ、まとめる活動を通して、地域のよさに気付いたり、地域貢献の意欲をもったりする児童が80%以上になる。